

マルチメディア、分散、協調とモバイル (DICOM02020) シンポジウム
「アフターデジタル ～人中心に全てがつながる情報技術～」を開催するにあたって

実行委員長 山本 里枝子

2020 年は新型コロナウイルスによる社会環境の大きな変化を経験した記憶に残る年となりました。これまで必要性を認識しながら実現できなかったテレワークやオンライン授業等が現実には実施されています。デジタルの価値がより広く認識されました。ビッグデータ、AI、IoT 等の新たな ICT 技術を活用して様々な社会課題の解決やビジネスモデルを変革する、DX(デジタルトランスフォーメーション)が必然となることも示しています。第 24 回を迎える今回の DICOM02020 では、DX が実現された新しい時代の技術を議論すべく、統一テーマを「アフターデジタル ～人中心に全てがつながる情報技術～」としました。そして、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、今回初めてオンライン開催で実施します。

今回のシンポジウムでも、統一テーマに関する 8 つの特別セッションを設けました。それぞれの特別セッションでは主催の研究会から統一テーマに沿った最近のトピックスなどをまとめた招待講演を行います。どのセッションも大変興味深い内容の講演が予定されています。

また、特別招待講演として、南山大学理工学部の青山先生をお招きしました。先生はソフトウェア工学研究の第一人者として世界最先端の研究を牽引しながら、経済産業省が 2018 年 9 月に発表した「DX レポート～IT システム『2025 年の崖』の克服と DX の本格的な展開～」を取りまとめた研究会の座長をされています。このレポートは企業の ICT のあるべき方向感と国内企業への警鐘を具体的に示したことで、様々な方面に大きな影響を与えました。今回、DX のその先、社会のデジタル活用が進んだ際に、どのような情報処理システムを想定して技術を進展させていくべきかを広い見識をもとにご講演下さいます。DX を発信された先生の視点でアフターデジタル社会へ向けたお話を伺えることは、今後の研究の方向性を考える上で大変価値があると考えます。

シンポジウムは、講演 221 件、招待講演 9 件（特別招待講演 1 件を含む）、デモ 5 件の発表・講演で構成されています。オンライン開催による 3 日間となりますが、人とつながりワイワイと盛り上がる DICOMO の文化をオンライン開催でも感じて頂きたいです。これまで以上に異なる分野の参加者が活発に意見を交わし、アフターデジタルへ向けた様々な技術の方向性を議論頂ける場となることを期待しています。